

長根だより

令和4年1月14日

No. 9

長根小 学校通信

【校訓】

強く

明るく

よく励む

メタ認知能力を育てる

長根小学校長 弓削 善靖

新しい年になりました。昨年は、長根小学校の教育活動に対し、多くのボランティア活動を始めとして本当にお世話になり、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「メタ認知」という言葉を教育関係でよく耳にするようになりました。これは、「客観的な自己」と表現されることもあるように、じぶんが認知していることを客観的に把握し、制御することです。もともとは、J・H・フラベルというアメリカの心理学者が定義したもので、決して新しい概念ではないのですが最近教育関係や人材育成などで重要な能力の一つとして注目されるようになっていきます。

「メタ認知」の能力をアップすることができれば、自分自身を冷静に見ることができるようになります。これにより、学校教育目標の重点事項にも掲げている、「自他肯定の姿勢」も根拠をもって高めていくことが可能になりますし、目標設定やその達成、問題解決能力を高めることも可能になります。「自分を好き」と胸を張って言える子が日本では外国に比べて少ないと言われています。それがよいのか悪いのかという議論もありますが、自己肯定を客観的な根拠をもってできる子どもを育てることは間違いなく必要なことであると思います。

長根小学校では年間21回の「にこにこタイム」という時間や道徳の授業の中で、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行っています。ここでは、コミュニケーションを良好に保つための方法（上手な断り方・怒りの抑え方・仲間の入り方・あいさつ）といったものに加え、互いの良いところを認め合う時間を設けています。自分では気づいていない自分の良さをクラスメートから認めてもらうことで、自信をつけたり、前向きな心をもつことができるようになります。こうして、文字通り客観的な立場の人からの自分の評価を知ることで、自らのメタ認知能力を育てようとしています。

学習においても、授業のめあてを子どもたちで決め、どんな発言も決して否定されることのない話し合いの中で、一番大切なことを子どもが自ら導き出す子どもたちが学びの主人公となる授業をさらにすすめることで「メタ認知」の能力を向上させたいと思っています。



左：仲間の入り方

右：相手の良さを伝える

恩 送 り

聖カピタニオ女子高校からの恩を地域に広げる

昨年度から、お隣の聖カピタニオ女子高校の皆さんからクリスマスカードが子どもたち一人一人にいただけるようになりました。カードをもらった子どもたちの嬉しそうな顔は、学校のホームページでも紹介しました（12月21日～23日に紹介しました。ぜひご覧ください。）。カピタニオの皆さん、本当にありがとうございました。

12月、道德の授業で「恩送り」について知った6年生の子どもたちが、カードをいただいた喜びをぜひ地域に広げたいと考え、総務委員が中心となって、クリスマスカードをふたば保育園の子どもたちとふれあいセンター“連”に届けました。

子どもたちが自分で連絡を取り、自分たちでカードをつくり、自分たちで届けることができました。コロナの関係で様々な児童会行事は実施が難しい状況ではありますが、こうして子どもたちの自主的な活動が広がっているのはとてもうれしいことです。



ふたば保育園におじゃましました

コミュニティ・スクールのよさを広げます

長根小学校ではコミュニティ・スクールとして、地域と保護者と学校が一緒になって子どもたちを育てるための取り組みが実に多岐にわたるようになりました。素晴らしいボランティアのアイデアが集まり、すばやくそれが実行に移されています。こうして、長根小学校のコミュニティ・スクールとしての取り組みは、愛知県のみならず、様々な場所から興味をもって見ていただけるようになってきています。

地域連携教職員である本校事務主任は、書籍の執筆を始めとして、大学の授業等、様々な研修の場に講師として出かけたり、Webで参加したりするようになっていきます。またねこSAPOさんも県の研修で講師を務められました。

3学期は、愛知教育大学から、大学院生たちが取り組みの様子を見学・体験しに来られることになっていますし、中日新聞が「ねこ丸隊」の取材をしに来られることにもなっています。

それもこれもすべては、地域・保護者・学校が一緒になって子どもたちの育成に関わるというスタンスがきちんとあるがゆえのことです。本当にありがたいことです。



1年生とねこ丸隊